

10月



2015年9月30日発行

セブンスデー・アドベンチスト石川教会付属 石川三育保育園

異常な暑さと度々の台風の来襲に見舞われた今年の夏でしたが、保護者の皆様はいかがお過ごしになられたでしょうか。ようやく、過ごしやすい季節が沖縄にも訪れました。これまでの皆様の様々なお疲れが癒されることをお祈りしています。

先日、図書館で「高校生レストランの奇跡」という題の本に目が釘つけになり、思わず手に取り、必要な手続きを終えて図書館を後にしました。何故、その本に関心が及んだかと言いますと、「奇跡」という言葉に引かれたからです。本を読んで分かったことですが、テレビの連続ドラマにもなり、地域再生、村・町おこしを夢見ている人々にとっては、憧れの象徴になっているお店であるそうです。

常識では考えられない出来事が起きることを「奇跡」と言いますが、高校生レストラン「まごの店」が実現するまでの物語を読んでもみると、確かに、その都度、大事なところでは人間が持っている先入観が覆される出来事が起きていたのです。この物語は、一人の人の「人を信頼する」強い思いから始まっているように思いました。地域活性に取り組んでいる町役場の一職員が、県立高校の調理科の先生と生徒たちとその持てる力を信頼したのです。

しかし、最初からその力を信頼したのではありませんでした。ある時、彼は、町の特産品を用いた試食会を開く企画を立てました。その時、白羽の矢が向けられたのが、彼らでした。調理課の生徒たちに試食会の調理をしてもらおうと話題になると思ったからでした。話を進めていくのですが、ルーズソックスを履いた今どきの女子高校生が本当に調理できるのだろうか？担当の先生は、詳細を聞かずに、直ぐOKしたので大丈夫かな？と心配になるのです。

そして、試食会当日を迎えました。彼の心配は、取り越し苦労となったのです。出来上がった試食品を見て、大勢の人々が驚き、試食して、結婚式の披露宴ができるほどの料理だと感嘆するのです。驚いたのは料理だけではありませんでした。生徒のみなさんのおもてなしの姿が、素晴らしかったのです。彼は、次のように、「ルーズソックスを履いたキャピキャピの女子高生だなんて、大きな間違いであった」と自分の無知を恥じました。

これ以後、彼の先生と生徒たちに対する信頼は、揺るがないものになったのは言うまでもありません。そして、幾多の困難を乗り越えて、高校生が自ら調理をし、レストランを運営する「まごの店」が完成したのです。オープン以来今日まで、2時間で完売するという他に類を見ない盛況ぶりが続いています。

もし、彼が今どきの子供たちという先入観を捨てることができなかつたとするならば、このような奇跡を生み出すことができなかつたことなのでしょう。他の人々から信頼されるということは、人を勇気づけ、最後まで期待に応えようとするのです。人を信頼することは、人を愛することに他ならないことを憶えたいものです。愛は愛を生み出すのです。

園長 糸数正義

聖書のみ言葉

『愛には恐れがない。完全な愛は恐れをとり除く。…』 Iヨハネ 4:18

